

国 語

第1問 次の各問いに答えよ。

問1 次の傍線部のカタカナをそれぞれ漢字に改めよ。(楷書で記すこと。)

- | | | |
|------|-------------------|----|
| (1) | 国民エイヨ賞を授与する。 | 1 |
| (2) | 西洋社会のコンカンにある思想。 | 2 |
| (3) | 不当なダンアツに抗議する。 | 3 |
| (4) | 駅前の商店街ががサビれる。 | 4 |
| (5) | 森林のバツサイを制限する。 | 5 |
| (6) | 現実からユウリした発想。 | 6 |
| (7) | ニintai強く交渉する。 | 7 |
| (8) | 次第に問題のリンカクが鮮明になる。 | 8 |
| (9) | イセイのいい掛け声。 | 9 |
| (10) | ジウナン体操で体をほぐす。 | 10 |

問2 次の傍線部の漢字の読みをひらがなで記せ。

- | | | |
|------|----------------|----|
| (1) | 部屋の隅々まできれいにする。 | 11 |
| (2) | 不正を容赦なく追及する。 | 12 |
| (3) | 新規事業者の台頭が目立つ。 | 13 |
| (4) | 社寺建立の由縁を調べる。 | 14 |
| (5) | 瞬く間に作業が完了する。 | 15 |
| (6) | 配線の漏電箇所を修理する。 | 16 |
| (7) | 過ぎたことに心を煩わさない。 | 17 |
| (8) | 世間の人々を戦慄させた事件。 | 18 |
| (9) | 責任の一端を担う。 | 19 |
| (10) | 奔流が滝となって流れ落ちる。 | 20 |

第2問

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

公共的価値は、まず、多数者が支持する価値ではなく、それを多数決によって決めることはできない。多数者にとつての価値が公共的価値として I されるならば、少数者の基本的権利を侵害することも多数者の善を実現するために正当化されてしまうことになる。このことは、公共的価値は、少数者を含むすべての市民が強制なく受容しうる価値であることを意味している。

公共的価値は多数者にとつての価値ではないとして、それをどのようにして特定することができるだろうか。それが、私人がそれぞれ追求する価値の共通部分を指すかと言えば、答えは否である。というのも、健康被害や温暖化を避けるために排気ガスを規制することはすべての人々にとつて資するが、それも（たとえばガス排出に課金される）一部の人々の利益には X するからである。公共的価値とは、自らの私的利益には反するとしても、すべての人々が市民として判断するときを受容しうる価値である。

制度が実現すべき公共的価値とは、より多くの人にとつての価値（多数利益）でもなく、人々が追求する私的価値の共通部分（共通の私的利益）でもない。それは、互いに異なった生を生きるすべての人々が、利害関心や価値観の違いにかかわらず、市民としては互いに受け入れることのできる価値である。次に見るように、公共的価値とは、公共的理由（public reason）^A によって正当化される価値を指すと考えることができる。

あらかじめ定義するならば、公共的理由とは、利害関心や価値観を異にする人々がともに受容しうる理由である。^(注) T・M・スキャンロンによれば、誰もが理にかなった仕方で退けることができない理由によって支持されるときに、正一不正に関する主張は正当化される（Scanlon 2003）。つまり、すべての市民が、積極的には支持しないとしても、それぞれの立場から見て理にかなった仕方で退けることができないと判断する理由によって正当化される価値が——たとえばそれが少数者のものであるとしても——公共的価値とみなされることになる。この「理にかなった仕方で退ける」ことができるかどうかという規準は、権利・義務にかかわる法や政策の決定にあたって、一人ひとりの市民の立場が考慮に入れられることを要請する。^B

この規準は、不利を被りがちな少数者を含め、各々の市民の立場に対して拒否権（veto）を与える（これは現実の拒否権ではなくあくまでも仮設的な拒否権である。もし一人ひとりの市民に現実の拒否権が与えられるなら現状維持を脱することはできなくなるだろう）。つまり、市民は、自分でも受け入れられないような理由をもって自らの主張を他の市民に対して正当化することはできず、当の理由にもとづく拒否を認めなければならない。

「理にかなった拒絶可能性」（reasonable rejectability）のテストは、各市民それぞれの立場を平等に尊重する判断形成の手続きを与える。言いかえれば、それは、多数意思が少数意思を無視したまま貫徹されるのを阻む反省の機会を与える。もちろん、あらゆる法や政策がこのテストの対

象になるわけではなく、それが厳格にⅡされるのは、問題となる法や政策が基本的な権利の侵害など道徳的な不正とみなされる事態を引き起こす恐れがある場合である。

公共的理由による正当化が重要なのは、(多数者に属する)人々が、個人(私人)としての利益に明らかに反する主張(法案や政策立案)であっても、市民としてはそれを支持する理由を容しうると判断し、自分自身をその理由によって説得することが可能となるからである。「理にかなった仕方で」という言葉は、私人としてではなく、市民(つまり、制度を共有する他の市民の立場をも考慮に入れる主体)として判断を形成することを指し示している(したがって、自らの私的価値の追求が阻害されるという主張は「理にかなった拒絶」とはみなされない)。

このように、公共的理由とは、あらゆる市民の立場から批判的に検討を加えてもなお維持できる理由である。ある法案や政策立案が、そのような検討をするときに維持できないと判断される場合には、それらは公共的価値にかなっていないとはみなされない。たとえば、何らかの政策が、ある市民の立場から見ても生命や健康を損なう重大なリスクをとまなうものであると判断され、しかもその判断を他の市民も理にかなったものと認めるなら、それは撤回されるべきである。

もちろん、そうした理由の検討を行っても、何が「理にかなっている」かについても争いが避けられない以上、何が公共的理由であるかについての合意を導くことはできないという見方もあるかもしれない。しかし、理由の検討を行う公共的推論は、(誤った事実認識にもとづく、あるいは偏った判断にもとづく)不十分な理由を退けることを目指すのであり、すべての人々が完全な合意に到達することを目標とするわけではない(Forst 2007)。公共的推論の役割は、市民が積極的には支持しないとしても退けることができないと判断する理由をⅢしていくことにある。

「公共的理由」による正当化がどのように行われるかについて、高レベル放射性廃棄物の保管施設をどこに設けるかという問題を例に少し考えてみよう。

高レベル放射性廃棄物は、使用済み核燃料等、原子力発電の稼働によって生みだされる核廃棄物である。日本にはすでに膨大な廃棄物があるのに加えて、原発が再稼働したことによって日々新たに生みだされている——しかもそのほとんどは原発施設内にならざる無防備な状態で蓄積されている——が、その最終的な保管施設をどこにどのようなかたちで設けるかはまだ決まっていない。この廃棄物が途方もないリスクをはらんでいるのは明らかである以上、どの地域もそれを受け入れようとはしないのは当然とも言える。この件に関して、受け入れを拒む各地域の市民の判断は「理にかなった拒絶可能性」のテストをパスするはずである。

このケースもそうであるが、受け入れを拒む理由が市民によって十分に共有されるものであり、しかも当の「負の財」をつくりださなければならぬ必然性がない——社会は原子力に代わるエネルギーを開発しうる——場合には、それをつくらぬことが政策形成の基本線になるはずである。「理にかなった拒絶」は、逆に、「負の財」をあえて維持しようとする「理由」がはたして妥

当なのかを問い返すことができる。

市民として判断し、行動することは、個人（私人）として判断し、行動することとはつねに重なるとはかぎらない。^(注) ロールズによる「合理性」(rationality)と「道理性」(理になつていること) (reasonableness) の区別を参照して、少し整理しておきたい (Rawls 1993)。

私たちは、個人（ある集団の一員）としては、自らの利益を追求し、自らにとつての価値を實現しようとするが、市民としては、法や政策を通じた利益や価値の追求が他の市民にとつても受容可能なものであるかを検討しなければならぬ。個人としての判断形成は、もっぱら、「合理性」つまり自らの所与の目的を實現するのに最適な手段を選択する理性に沿って行われるが、市民としては、その判断を、「道理性」すなわち他者による受容可能性を検討するもう一つの理性に照らして省みることが求められる立場にある。

望ましいのは合理的かつ、理になつた判断を形成することであるが、両者の間に齟齬がある場合には、「道理性」によつて「合理性」を、他者もまた受容しうる理由によつて自らを最適化する理由を制御することが市民には求められる。言うまでもなく、こうした自己制御はそうしたやさしいことではない。

私たちは、自己利益の追求を「道理性」の観点から制御しうる場合にも、自分の属する集団——会社であれ宗教団体であれ——を最適化する行動をとることに躊躇を感じないことが多い。むしろ、自集団の要請に応える立場にあるときにはとくに、内部を優先し、その目的の實現に向けて合理的に行動することは当然とみなされがちである。

もちろん、自集団の内部最適化をはかることそれ自体は何ら非難されるべき事柄ではない。問題は、内部最適化のためにひたすら合理的に行動しようとする、その行動が外部にとつて受容可能なものであるかどうかを省みる道理性の視点が薄れることにある。内部に対してのみ責任を負う関係をつくり、それを維持することは、外部に対する責任を減免するようにはたらいてしまふ。こうして、ひたすら自集団のために貢献することは、しばしば「道徳的な抜け穴」(T・ポツゲ)として作用する (Pogge 2002)。

こうした事態を避けるためには、他者——とりわけ自らの行動の影響を被ると見られるステイクホルダー——に対して、自らの判断や行動を正当化する理由を挙げるのが迫られるような制度や慣行をつくりだしていく必要がある。

(齋藤純一『不平等を考える——政治理論入門』による)

(注) T・M・スキャンロン、ロールズ、T・ポツゲ——いずれも現代の政治哲学者。

問1 二重傍線部ア・イの語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

ア 資する

① 抑えとなる

21

② 守りとなる

③ 導きとなる

④ 助けとなる

⑤ 励みとなる

イ 省みる

① 過ぎ去ったことを思い起こす

22

② 自分の言動についてよく考える

③ 間違いがないか確かめる

④ 原因を詳しく調べる

⑤ 二つのものの優劣を比べる

問2 空欄Ⅰ～Ⅲに入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上選ばないこと。Ⅰ 23 ・ Ⅱ 24 ・ Ⅲ 25

① 適用

② 批判

③ 定義

④ 転換

⑤ 特定

問3 空欄Xに入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 26

① 抵触

② 迎合

③ 付度そんたく

④ 屹立きりりつ

⑤ 寄与

問4 傍線部A「公共的価値とは、公共的理由（public reason）によって正当化される価値を指す」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 27

① 公共的価値とは、すべての市民が強制ではないかたちで受容できる価値であり、それはそれぞれの市民が、市民として積極的に支持することができる理由によって正当化されるということ。

② 公共的価値とは、多数決によるのではなく、みんなの利害が一致するところに成り立つ価値であり、利害関心や価値観を異にする人々が共に受容しうる理由によって正当化されるということ。

③ 公共的価値とは利害関心などの相違によらず、市民としては互いに受け入れ可能な価値のことで、それは理にかなった仕方では退けることができない理由によって正当化されるということ。

④ 公共的価値とは、私的利益に反しても、市民としては受容できる価値であり、それは全体の利益を重視し、それを守るためにはやむを得ないと認められる理由によって正当化されるということ。

⑤ 公共的価値は、私人の利益を考慮するのではなく、全員が市民として受け入れられる価値のことであり、それは合理的な方法では反論のできない理由によって正当化されるということ。

問5 傍線部B「各々の市民の立場に対して拒否権（*refuse*）を与える」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 28

① 多数意思が少数意思を無視して貫徹されようとするなど、不正な事態を生じさせかねない場合は、不利益を被る少数者は、実際にその法や政策を拒絶することで、自らの権利を守ることができるということ。

② 自分でも受け入れられない理由によって、自らの主張を他者に対し正当化するような場合は、理にかなっていない可能性を持つ拒絶であっても、その権利をあらゆる市民に対して認めなければならぬということ。

③ たとえば、ある法や政策によって多数者が少数者の私的価値の追求を阻害するなどの事態が生じ、理にかなった方法でその法や政策が退けられると判断できる場合は、市民の誰もがそれを仮設的に拒絶できるということ。

④ たとえば、ある法や政策が、基本的人権の侵害になっていると判断でき、しかもその判断を他の市民も認めるような場合は、すべての人々が合意に到達することによって、その法や政策を拒否できるということ。

⑤ たとえば基本的な権利の侵害など、道徳的に見て何らかの問題が生じる危険性のある法や政策に対しては、他の市民の立場も考慮に入れた主体としての市民には、それを拒否する権利を認めるべきだということ。

問6 傍線部C「こうした自己制御はそうたやすいことではない」とあるが、それはどのようなことを指すか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 29

① 私たちは、自己の利益を追求し自らにとっての価値を実現するという行動を制御し、道理性に基づいた行動をとることに抵抗があるが、特に自己の属する集団を最適化させることに対しては、大きな困難が伴うということ。

② 私たちは個人または集団の一員としての合理性に沿った判断形成を制御し、他者が受け入れることのできる道理性に照らして判断・行動することが求められる場合があるが、それは決してたやすいことではないということ。

③ 個人としての判断・行動と、市民としての判断・行動が一致しない場合、私たちには個人としての判断・行動を制御して最適化させることで、他者に受け入れてもらう必要があるが、それは容易なことではないということ。

④ 私たちは、個人や集団の一員として感情にまかせて自己の利益を追求するのではなく、あくまでも理性によって自己を制御し、他者が受容可能なふるまいをすることが求められるが、それはなかなか難しいということ。

⑤ 私たちは、目的実現のために、合理性と道理性のどちらかの視点を優先させようとするのではなく、それを制御し、両者が共に尊重される判断や行動を形成する必要があるが、それは簡単なことではないということ。

問7 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

30

① 私たちは、個人として行動するときと、市民として行動するときと、集団の一員として行動するときとは、それぞれ違った原理で判断・行動をしていく必要がある。

② 公共的理由とは、誰もが理にかなった仕方では退けられない理由であって、最終的にはすべての人の合意を得なければ成り立たないものである。

③ 放射性廃棄物の保管施設の受け入れを拒むのは、公共的理由として理にかなっているが、そのような「負の財」をどこにもつけないというわけにはいかない。

④ 自己利益の追求によって道徳的な抜け穴が生じるのを防ぐためには、自らの行動の正当性を問い直す機会を、制度的につくっていく必要がある。

⑤ 何を理にかなっていることと考えるかが人によって違う場合は、少数者の立場に立つて理由の検討を行い、不十分な意見を退けるべきである。

第3問

次の文章は『平治物語』の一節で、平治の乱で敗れた源義朝の子である義平（悪源太）が平家方に捕らえられる場面である。これを読んで、後の問いに答えよ。

同じき正月二十五日に、悪源太は、「東近江に知りたる人を頼み下りて、しばらく休まん」とて下られけるが、逢坂の山に立ち入りて、しばらく休みたまふほどに、前後も知らず伏したまへり。^(注)難波次郎経遠、をりふし五十騎にて、石山指して下向しけるが、関の明神の御前にて、^(注)法施まゐらせけるほどに、近江路より一町ばかり引き入りて、悪源太伏しておはしける上にて、飛び行く雁の左右へばつと乱れければ、難波次郎、これを見て、「敵、野に伏す時は帰雁列を乱るといふ本文あり。彼処に敵のあるにこそ」とて、五十余騎、馬より下りて、捜すほどに、悪源太の伏しておはしけるを見付けて、「山中にただいま伏したるは何者ぞ。名乗り候へ」と言へば、悪源太、がはと起き、「源義平、ここにあり。見参せん」とて、さんざんに斬つてまはる。難波次郎、^(注)よつ引いて放ちければ、悪源太の小腕にしたたかに立つ。難波次郎、言ひけるは、「敵は手を負ふ。寄り合へや、者ども。寄り合へや、者ども」と下知しければ、兵ども、悪源太に寄り合ひ寄り合ひ戦ひければ、小腕は射られつ、太刀の柄、思ふやうにも握らねば、はかばかしくも戦はず。兵ども、あまた落ち合ひて、手取り足取り、髻取りて、つひに生け捕りにし奉る。

馬に乗せ奉り、六波羅へ参り、縁に引つ据ゑ奉りければ、「義平ほどの者を、敵なればとて、縁に置くべきか」とて、引きて、侍へ入れたまへば、侍に据ゑ奉る。さて、清盛、出で向かひて、「いかに、御辺は、三条烏丸にて、三百騎の中をだにも破りて出でられけるに、関山にては、わづかに五十騎に捕らはれけるぞ」と宣へば、悪源太、あざ笑ひて、「異国の項羽は、百万騎具すといへども、運尽きぬれば、敵高祖に捕らはれき。義平も、運尽きぬれば、力及ばず。王・人ともに運尽きたらん時は、かうこそあらんずれ。遂には身の上ならんずぞ。ことさら、義平ほどの敵をしばらくも措きては悪しかるべきぞ。疾う疾う斬れや」と宣へば、「さらば」とて、六条河原に引き出だす。

「^ウ聞こゆる悪源太斬らるるなり。いざや見ん」とて、京中の上下、河原に市をなす。悪源太、「あの雑人ども、退き候へ。西を拝みて、念仏申さん」と宣へば、左右へざつと退きにけり。悪源太宣ひけるは、「あはれ、平家の奴ばらは、物にもおぼえぬぞとよ。義平ほどの者を、日中に、河原にて斬ることこそ口惜しけれ。^(注)保元の合戦にも、人をあまた斬りしかども、昼は山の奥にて斬り、夜こそ河原にて斬りしか。あはれ、清盛が熊野参りの時、『阿倍野に待ち設けて中に取りこめ討たん』と言ひしを、^(注)信頼といふ不覚人に下知せられて、今かかる憂き目を見るぞとよ」と宣へば、^(注)難波三郎経房、「何と殿は後言をしたまふやらん」とて、太刀を抜いて寄りければ、^D「汝は、主には似ず、物をおぼえ、けに言ふものかな。義平がためには、後言ぞ。義平をば誰が斬らんずるぞ。汝が斬らんずるか。よく斬れ。悪く斬らば、しや汝が面に食ひ付かんずるぞ」と宣へば、「斬らるる人の斬り手の面に食ひ付きてんや」と言ひければ、悪源太、「ただいまこそ食

ひ付かずとも、百日が中に、雷となりて、蹴殺さんずるものを」とて、手を合はせ、念仏申されければ、難波、背後へまはると見えしが、御首は御前に落ちにけり。御年二十歳になりたまふ。

(注) 難波次郎経遠・難波三郎経房——いずれも平清盛に仕えた武将。

石山——石山寺。現在の滋賀県大津市石山にある。

法施——経文をとなえること。

本文——故事。

よつ引いて放ちければ——弓を強く引いて矢を放ったところ。

六波羅——京の六波羅にあった平清盛の屋敷。

奴ばら——やつら。「ばら」は複数を示す接尾語。

保元の合戦——後白河天皇と崇徳上皇の対立に、藤原氏、平氏、源氏が加わって戦った保元の乱（一一五六年）のこと。

信頼——藤原信頼。信頼は、源義朝らとともに、清盛が熊野参詣に赴いた隙を狙って挙兵した。

後言——愚痴。

しや——侮蔑の意を含んだ接頭語。

問1 傍線部ア～ウの古語の読みを、現代仮名遣いのひらがなで記せ。

ア 兵 | 31
イ 太刀 | 32
ウ 雑人 | 33

問2 波線部あ～えの語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

あ 見参せん

34

- ① 参上しよう
- ② 見に参られよ
- ③ 見知っていよう
- ④ 相手をしよう
- ⑤ 名乗りを上げよう

い ことさら

35

- ① そのうえに
- ② わけもなく
- ③ とりわけ
- ④ むやみに
- ⑤ 無理に

う 聞こゆる

36

- ① 悪評のある
- ② 名高い
- ③ 恐れられている
- ④ 高貴な
- ⑤ 信望のある

え 口惜しけれ

37

- ① 後悔する
- ② 興ざめである
- ③ 不都合である
- ④ 恥ずかしい
- ⑤ 残念である

問3 二重傍線部 a 「奉る」・ b 「宣へ」についての文法的な説明として正しいものを、次の

- ①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。 a 38 ・ b 39
- ① 謙讓語で、作者が悪源太に対して敬意を表している。
 - ② 謙讓語で、経遠が悪源太に対して敬意を表している。
 - ③ 尊敬語で、清盛が悪源太に対して敬意を表している。
 - ④ 尊敬語で、作者が清盛に対して敬意を表している。
 - ⑤ 丁寧語で、作者が悪源太に対して敬意を表している。
 - ⑥ 丁寧語で、作者が清盛に対して敬意を表している。

問4 二重傍線部 c 「に」と同じ用法の「に」を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 40

- ① あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。(『竹取物語』)
- ② 声絶えず鳴けや鶯ひととせにふたたびとだに來べき春かは(『古今和歌集』)
- ③ わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせんと思はんや。(『徒然草』)
- ④ おのが身はこの国の人にもあらず。(『竹取物語』)
- ⑤ 一夜のうちに塵灰ちりほひとなりにき。(『方丈記』)

問5 傍線部 A 「遂には身の上ならんずるぞ」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 41

- ① 最後には自分たちが戦に勝つことになるだろうよ
- ② 結局のところ負け戦になってしまったことよ
- ③ 最後にはお前たちも運が尽きて負けるだろうよ
- ④ 今もって自分は戦に負けたことはないのだよ
- ⑤ とうとう自分にも死ぬ時が訪れたのだろうか

問6 傍線部 B 「しばらくも措きては悪しかるべきぞ」には、どのような心情が表現されているか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 42

- ① 豪の者であると自他ともに認めていることを自負している心情。
- ② 一刻も早く斬られて武士としての名声を上げたいという心情。
- ③ 敵に向かって再び愚痴を言うのではないかと危惧きぐしている心情。
- ④ 近いうちに味方が助けに来てくれることを期待している心情。
- ⑤ 捕虜となった恥辱から早く逃れて自決したいという心情。

問7 傍線部C「平家の奴ばらは、物にもおぼえぬぞとよ」と言った理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 43

- ① 平家の名もない兵に捕らえられ、自分の名を汚されることを許しがたく思ったから。
- ② 平家方に味方する多くの人々の集まっている中で斬られることを情けなく思ったから。
- ③ 念仏を唱えると言うと平家の人々が恐れをなして左右に退いたことを意外に思ったから。
- ④ 人目の多い河原で日中に斬られるのでは、武士としての誇りが傷つくと思ったから。
- ⑤ 平家の兵が弱腰になり斬るのを躊躇ちゅうちゅうしていることをふがいないと思ったから。

問8 傍線部D「汝は、主には似ず、物をおぼえ、けに言ふものかな」と言ったのはなぜか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 44

- ① 「早く斬れ」と言った言葉に経房がすぐに反応し、太刀を抜いて斬る準備を整えたから。
- ② 自分の言ったことを経房がすぐに愚痴として捉え、自分の気持ちを的確に指摘したから。
- ③ 自分の言ったことを経房がすぐに愚痴だと勘違いして、自分を厳しく批判したから。
- ④ 自分の言ったことを経房が愚痴だと決めつけたので、経房に斬られたくなかったから。
- ⑤ 自分の気持ちをただ一人理解してくれた経房以外の者には斬られたくないと思ったから。